

TIJ 日本語教育研究会通信

No.53 2014.1.27 発行

発行: TIJ日本語教育研究会事務局
東京都葛飾区新小岩1-17-10
Tel:03(5607)4100 /Fax:03(5607)4102
E-mail: tij@tij.ne.jp
TIJ ホームページ <http://www.tij.ne.jp>



遅くなりましたが、改めまして明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。

設立 22 年目の 2013 年度、T I J にはいろいろな国から留学生が入学しました。10 月の新入生は、漢字圏学生と非漢字圏学生がちょうど半分ずつになりました。2014 年 4 月にはさらに新たな国から留学生が入学してくるものと思われます。

非漢字圏学生に対して日本語授業をするにあたり、漢字教材を作成したり、T I J 著作「はじめよう日本語初級」の語彙リストを出版したり、いろいろ考えて工夫をしていますが、なかなか難しいものがあります。本号にはT I J 講師たちの工夫と苦心談を掲載し、皆様と問題を共有することで、今後より望ましい方法を探っていきたいと思えます。

また、T I J 奨学金受給学生のインタビュー記事も掲載させていただきました。どうぞ一読ください。

【本号の内容】

1. はじめよう日本語初級準拠漢字教材
2. 2013 年度 4 月生を担当して
3. 学生インタビュー
4. 事務局からのお知らせ

『はじめよう日本語初級』準拠漢字教材

2013年度からベトナムなど非漢字圏の学生を受け入れるにあたって、新たな漢字教材の必要性を感じ、2012年12月から本格的に作成に取り組んできました。

TIJは創立以来、中国の学生を中心に受け入れてきたことから、漢字教育については主教材の教科書とは関連のない漢字教材を用いてきました。しかし、2011年4月～6月期の一般初級クラスが非漢字圏学習者6人で構成されたことをきっかけに、以前からの懸案事項であった「初級教科書準拠の漢字教材（以下、初級漢字）」作成に着手することになりました。効率よく漢字が学べ、すぐ使えるようになることを目指して、下記の基準で作成を進めていきました。

『はじめよう初級日本語』準拠漢字教材の作成基準

1. 教科書準拠であること

「生活の中の具体的場面で必要な文法や語彙・表現を、自分のことや考え、身の回りの実際のことを言いながら習得していく」という理念で作成された教科書に基づいて漢字を学習すれば、より効果的に漢字運用力を高められると考えた。まず、字の成り立ちを表す漢字や、基本的部首となる漢字を導入し、教科書の進度に沿って使用頻度の高い漢字、日常よく目にする漢字を中心に選定した。なにより、非漢字圏学習者が過度に「漢字」に負担を感じないよう、熟語の数や選定に気を配った。選定漢字は『初級漢字1, 2, 3』で全409字とした。

2. 構成

見出し漢字・読み方・熟語2～4個・書き順・例文・練習問題
導入から練習まで、段階的に進めていけるよう工夫した。

3. 中級主教材準拠漢字との連携

将来の進学に備え、中級の学習にスムーズに移行できるよう中級教材との連携を考え調整した。

2013年3月までに『初級漢字1, 2, 3』を完成させ、4月にベトナム、スリランカ、ネパール等の学生を迎えることができました。担当講師の方々に使い勝手を聞いてみたところ、やはり準拠のメリットは少なくないようです。『はじめよう初級日本語』は「音声」による練習・会話を行なった後に、同じ内容を「書く」ことで定着を図っています。その「書く」作業で、非漢字圏の学生が積極的に漢字を使う姿勢が見られるようになったそうです。簡単な自己紹介文や作文を、学習の早い段階から漢字で書けることの喜びは大きいと確信しています。学生たちが、たどたどしいながらも漢字を書き、「先生！」と得意そうに見せる姿に接するのは、なかなか嬉しいものです。今後の課題としては、教科書の進度と漢字学習の進度の調整が挙げられました。

さて、新しいものへの移行期には様々な調整が必要となりますが、10月から自分が非漢字圏クラスを担当してみて、早速そのことに直面しています。それは「熟語」の選定です。既習漢字との組合せの熟語や、覚えてほしい熟語を選ぶなど、選定にはかなり

気を使ったはずなのですが、熟語の「意味」を導入することがこれほど大変とは！ 漢字の表意性が通用せず英語もわからない非漢字圏の学生に、媒介語なしに意味を説明することがいかに困難か、いままでいかに漢字の表意性に助けられてきたかを、思い知らされました。

この反省に立って、現在、非漢字圏学習者の負担を軽くしストレスなく漢字を理解できるようにと、熟語の再選定を行なっています。非漢字圏の学生たちは「漢字の勉強は必須！」の覚悟で来ていますから、総じて漢字学習には熱心に取り組みます。その意欲を削ぐことのないよう、楽しんで漢字を覚えてもらえるような教材にしたいと考えています。今後はベトナム語訳をつける予定ですが、その他の言語はどうするのかなど、非漢字圏対応には乗り越えなければならない山がいくつも感じるように感じています。

学生も大変ですが、教師も、体力・気力の勝負です。

北内直子 (TIJ)

2013 年度 4 月入学生を担当して

昨年の4月から TIJ にも新たにベトナム、スリランカ、ネパールといった非漢字圏の学生達が加わり、今までとは少し違ったムードの中、授業が進んでいます。4月生の入学式から早9カ月。思い返すと、大きな驚き、大きな戸惑い、ちっちゃな喜びなど毎日毎日がとても濃〜い9カ月でした。

見えてきた問題点

衝撃は初日のプレースメントテストから始まりました。以前私は中級レベルのベトナム人を教えたことがあり特に問題もなかったのですが、いつもと同じ調子で学生にインタビューを開始しました。「トランさん」という学生に名前を聞いたところ、何度聞いても「チェン」か「チャン」にしか聞こえません。まさか別人？と疑ったりして…。「家族は10人」と聞こえ、大家族だなと思ったら「4人」だったり。後でベトナム語（北と南で違うそうですが）は「TR」は「CH」に近い音であること、母音の数が多いこと、声調も6声あることなどを知り、衝撃を受けました。恥ずかしながら、学生の母語がどんなものか調べることを怠っていました。「俺ならまずベトナム語をマスターするね」夫の大胆発言にも触発され、早速ベトナム語の本を買いに行っただけですが…。

「喉元過ぎれば・・・」で大分忘れていたこともありますが、初級からの授業について（特にベトナムの学生のことになりますが）書いてみます。新たなメンバーであるベトナムの学生達は場面、語彙、文法導入でもなかなか手強いものがありました。しかし無理ありません。学生達にしてみれば国で受けてきた授業とはやり方が違って戸惑いが大きかったのでしょうか。学生達の困ったような表情を思い出します。それでも、ようやく私達の教え方に慣れてきたかなと思ったら、今度はアルバイトの問題が出てきて勉強に集中できないなんていうこともありました。

初級から初中級までを担当してきて、苦戦した点、問題になった点は以下のことです。

①場面や語彙・表現の導入での理解不足

- ②語彙・表現の定着の難しさ
- ③漢字認識の難しさ
- ④読みに対する抵抗
- ⑤1回のボリュームの多さ

個々の問題に対する対策

① 語彙調べを宿題にする、イラストや写真を多用する

春学期（初級1）の時点ではまだ『はじめよう日本語初級』のベトナム語版の語彙リストがなく、語彙調べを宿題にしていました。その宿題もやっぱりやってこない学生がいて、時間がある時は授業時間内に調べさせました。携帯の辞書も曲者で、どうしても調べきれない単語があります。もちろんベトナム語だけではありませんが、語学の勉強に欠かせない辞書が整っていないというのが本当に気の毒です。授業での語彙導入や場面導入ではイラストや写真を多用し、どうにかこうにかやってきました。『はじめよう2』は途中からベトナム語の語彙リストを持たせることができましたし、テキストの課の扉ページにその章で勉強する言語活動内容の訳があったので、学生が「？」という顔をしている時は、その都度確認させたりして、理解もだいぶスムーズになっていったように思います。

② 語彙のシートで復習する

定着を図るため、初級1では語彙の復習シート（前半・後半まとめて1回ずつ）を宿題にし、初級2ではまとめの時間に各課ごとの語彙や表現の復習シートをやらせてみました。案の定忘れていたことが多かったのですが、テキストを一生懸命繰ったり、友達と相談したりと結構楽しそうにやっていました。こういう問題をやるのは好きなようです。

③ 漢字練習帳を使用する

初級では漢字練習帳に書く練習をさせました。何回も書いているうちに一本棒が無くなってしまったり、左右のどちらか半分が無くなってしまったり（面接の「接」が「妾（めかけ）」になってしまったという笑い話も）、「持つ」と「待つ」を同じ漢字だと思っていたり、文の意味を全く考えずに「日本語を話す機会がない」と書いてみたり。「てへん」の説明はしているし、漢字には意味があることも分かっているはずなのですが…。これにも驚きでしたが、こまめにチェックし間違いを指摘していきました。一つ確信したのは、非漢字圏の学生は声を揃えて「漢字が難しい」と言いますが、漢字の勉強は実は嫌いではないということです。他の宿題の提出は遅いのに、漢字の宿題はちゃんと出していましたし、練習を重ねるうちに大分きれいに書けるようになったと思います。また、間違いながらも積極的に漢字を使うようになってきました。期末の漢字テストにもしっかりと結果が表れていました。

④ グループで読む、新教材を活用する

漢字一つひとつはまあ「良し」としても、ズラズラ並んでしまうと、別物になってしまふのです。「読み」です。初級2、初中級で一番苦戦したのは「読解」でした。いつまでもルビに頼ってしまわないように、わざとルビを振らなかつたりしたのですが、これが初めは慣れず抵抗があったようで、考えれば分かるような漢字（例えば「自転車に乗って」の「乗」）の読み方まで聞いてくることもありました。「自転車が分かれば、次

に来るのはどんな言葉なの？」と、手取り足取り…。「難しい」と言って半分諦め顔の学生を「そんなに難しくないよ」と励ましながら…というより、騙し騙し(?)、分からない言葉があっても前後を読んで意味を推測する力が必要だと論しつつ、問題をやらせてきました。

初級2の読みは『読解20のテーマ』を使いましたが、問題部分は読みの理解を助けるため、表を入れたり問題を追加したりしてみました。ベトナムの学生は自然にグループを作って助け合いながら問題に取り組み始めていました。お互いに「ああだこうだ」言っている様子を見て、まずは投げ出さないでやってもらうには2、3人のグループごとの読みも悪くないと思い、このスタイルを即採用しました。

初中級クラスで使用した『たのしい読みもの55』は各国語の語彙訳(ベトナム語も!)があったので、新しい語彙やキーワードになる語彙は訳を載せておきました。このテキストはCD(自然なスピードで結構速いです)を聞かせることができましたし、内容も面白い(日本文化に関するもの)ので、取っ付きやすかったようです。問題が少なかったので、これも問題を追加し、また話題に関連した書きもやらせてみました。最後にやった落語の「まんじゅう、怖い」では笑いも出て、読みを楽しんでいるふうでした。漢字圏の学生もいましたし、楽しいばかりではいけないので、やや難しめな内容の『2ndステップ』も他の曜日に進めました。新しい文法項目、語彙を先に導入してから読ませましたが、語彙の訳がない分、こちらのほうが大変そうでした。○×や記述の問題形式には少しずつ慣れてきたように思いますが、まだまだ練習が足りません。これから数もこなさなければならぬし、いろいろなスタイルの読みにも慣れていかなければなりません。

⑤ 量をコントロールする

『はじめよう日本語初級2』に入ると、応用会話はバリエーションがあつてかなり難しくなってくるので、せめてその日習ったことはしっかり覚えてもらうために、消化不良にならないように、セクションの初めの会話とそう変わらないものだけ聞かせることにしました。また、『はじめよう2』の文法編も復習1のみ授業で行う(復習2は読みだけ作文で使用)ことにしました。夏休み明けからは練習の多い会話は二日に分けて行いましたので、負担が少し軽くなったと思います。

今後の課題

上手く行きかけているとこちらでは思っていたのですが、初級2の途中と初級2が終わった時点で、計3名のベトナムの学生が下のクラスに移ることになりました。「上のクラスに行きたい」という学生は今までいましたが、自分から「下がりたい」という「下降志向?」の学生に正直戸惑いました。一人は何度か眉間にしわを寄せて容量オーバーのサインを出してはいたものの、質問するとうまく答えていたので、単なる努力不足であつてそれほど大変に思っているとは考えていませんでした。また、他の学生は書くのが遅かったため、ドリルをやるのに必死で教師の話聞いていないことが多かったのです。ドリルは後にしてちゃんと聞くように注意していましたが、知らず知らずのうちにプレッシャーを与えてしまっていたのかもしれないかもしれません。ドリルなどは、できる学生は既にやってきてあつたりしますし、この「ペース」の違いは今でも課題となっています。

結局この3人は下のクラスでもう一度勉強して良かったようですが、私としては彼等に対してもっと上手く指導できなかったのかという悔いも残っています。

ただ、授業中見ているとどうもマイペースな学生もいて、のんびりダラダラと問題をやる向きもありますので、(プレッシャーにならないように気を付けて)注意は続いています。テストも時間を区切って行うようにしています。

メインテキストは初中級から『学ぼう！にほんご』を使い始めています。文型・表現の提出のし方も『中級から学ぶ日本語』よりだいぶシンプルですし、本文も短く分かりやすいので、スムーズに行くと思いきや、これまた初めは大変でした。教師の細かい説明まで理解できていず、うやむやなまま文作りをしている学生もいました。文型導入が終わって練習問題をやる段になると、今度は練習問題の語彙が分からずいちいち辞書で調べながらやっている学生もいました。席を回って個別に確認していきましたが、理解の早い学生達に埋もれてしまって、見逃していることも多かったかもしれません。1月から私が受け持つ中級1Bは非漢字圏の学生がほとんどのクラスになるようです。きっと見えなかったものが見えてくるのでしょうか。面接で聞いた『学ぼう！にほんご』は「大丈夫」という学生の言葉を信じて、更にいいやり方を探っていきたいと思います。

何を勉強するにしても語彙の少なさがネックとなってきますが、ベトナムの学生達は、日本にいても狭い世界で生活していて、学校の外で日本語に触れる機会が圧倒的に少ないように思われます。でも、本当は彼等自身が興味を持てば世界を拓けることはできるはずです。ただテストの為、生活の為に日本語を学ぶというのではなく、もっと他の動機付けができれば変わってくるかもしれません。最大の関心事はアルバイトなのかもしれませんが、日本の何かに興味を持つとか、日本の何かが好きになるとか…。その何かのきっかけが学校で作れたらと今更ながら思っています。

また、母語の影響が強くなってしまいう「発音」という大きな大きな問題も相変わらず横たわっています。2月には文化発表会というイベントがありますので、この機会を上手く利用して指導できないものかと考えています。

12月24日にベトナムの学生から「メリークリスマス！」というメッセージが届きました。恋人はアルバイトに行ってしまうと寂しいクリスマスだったということです。このようなメールをくれるなんて、あの話し掛けるとおどおどしていた4月の時から考えると、進歩だな～としみじみ思いました。そして、また1月から、想定外のことがあっても(?) 頑張れそうな気がしてきました。

佐々木真佐子 (TIJ)

学生インタビュー

1月9日に冬学期の奨学金授与を行いました。前学期の出席率が100%で、成績も向上したことから、上級2クラスの辛鳳喜さんと中級3クラスの盛艶さんが選ばれました。授賞式後にインタビューを行いました。



辛鳳喜さん

質問：TIJの学校生活はどうか。

辛：楽しいです。私より若い人たちといっしょに勉強して、いろいろな新しい情報も得ることもできるので、楽しいです。私はクラスの人たちと10歳ぐらい差があります。若い人たちはどんなことを考えて生活しているのかいつも分からないし、今の大学生活もちょっと違うかもしれないから、クラスの人と話すとき、若い人たちは何を考えて、どんな大学

に入りたいのかなといつも考えながら会話しています。

質問：勉強はどうか。

辛：勉強はむずかしいです。面白いですけど、アルバイトをしながら勉強しているので、学校以外で勉強する時間が足りません。でも学校ではいつも先生と日本語で交流しているので、前より日本語が上手になったかなと思っています。教科書の内容以外の知識をいつも先生に教えてもらって、文法以外の知識、日本の文化とか日本の経済とか、生活の情報も、いろいろ得ることができました。前に中国で日本語を勉強したときと内容が全然違って、外国人からの視線の知識ではなくて、日本人の視線からのいろいろな問題に対しての意見とか、全然違うことを勉強できて、面白いです。

質問：最近聞いた言葉で、気に入った言葉がありますか。

辛：「空気を読む」です。中国にはこんな言葉はないかなと思います。あるのはあるのですが、ちょっとイメージが違います。日本人といっしょに生活していて、こんな感じを伝えたいとき、なんというのかわからなくて、先生にきいたとき、これを教えてもらいました。「空気を読みなさい」とか、「空気を読んで話しなさい」とか。学校とかアルバイト先では、いつも敬語を使って話すんですけど、友達たちとおもしろい話をしたい時、こんな言葉が使えたら、日本人っぽいと思います。普通の中国人はこんな言葉が使えないので、実は私は今、こんな言葉を使いたいんです。

質問：TIJ卒業後はどんな勉強をしたいですか。

辛：私は韓国で修士を終わりましたが、次もまた自分の専門を勉強したいです。私の専門は精神健康の社会福祉です。ちょっと珍しい専門ですよ。中国にはまだないので、必ず外国で勉強しなければなりません。これを日本で勉強したいんですけど、自分の日本語がまだ上手じゃないので、大学院博士課程に入るのはむずかしいかなと思っています。

す。でもこの分野は韓国より日本のほうが発達していますから、機会があれば必ず日本で勉強したいです。

質問：将来の夢は何ですか。

辛：学生に教える仕事をするのが夢ですけど、自分の専門でもいいし、韓国と日本に留学経験があるから、留学生に教える仕事もいいかなと思っています。クラスのメンバーたちが夢を持って一生懸命勉強してバイトもしているのを見て、こんな仕事もいいかなと思いました。私はいろいろな情報も持っているから、私のメリットじゃないかと思っています。

盛艶さん



質問：TIJの学校生活はどうですか。

盛：とても楽しいです。先生もやさしくしてくれるし、クラスメートも中国人ばかりですけど、みんないい人たちで、わからないことをいろいろ教えてくれて、この学校、このクラスに入って、いい人に出会えてよかったです。これから人と付き合う時にこの経験は役に立つと思います。

質問：最近聞いた言葉で、気に入った言葉がありますか。

盛：累覚不愛ということですが。疲れて愛することさえできないという意味ですけど、今は自分にとって大きい進歩がないので、まだこの感じないんですけど、これから日本の大学に入る準備のために、物理とか化学とか数学とか英語の勉強とか、一生懸命に全力を尽くしたらこの感じになれるかなと思っています。中国では人気のある言葉です。4月には TOEFLE の試験、6月には留学試験、7月には N1 試験がありますから、そのころにはこの感じになると思います。そのくらい一生懸命やりたいです。

質問：TIJ卒業後はどんな勉強をしたいですか。

盛：私が一番好きな科目は化学です。化学についてもっと勉強したいです。化学の中では、薬とか化粧品に関することいろいろですね。薬学部は難しいですけど、努力したいです。

質問：将来の夢は何ですか。

盛：薬の研究をしたいです。自分で研究して、作ったもの特に香水に自分の名前がつくことが夢です。

事務局からのお知らせ

T I J文化発表会のお知らせ

今年は昨年まで2月11日に行っていた文化交流祭りの代わりに、3月3日に文化発表会を開きます。学生たちがスピーチ、プレゼンテーション、お国紹介などをします。皆様、是非いらしてください。

期日 2014年3月3日

時間 午前9時半から11時半まで

場所 新小岩地区センター4階大ホール(新小岩駅南口より徒歩5分)

内容 上級クラス プレゼンテーション

中級クラス スピーチ

初級クラス 出身国、出身地の紹介

情報提供のお願い

T I Jでは皆様から様々な情報を募集しております。

- ・T I Jの留学生ができるアルバイト
- ・学生を課外活動に連れて行くと面白いところ
- ・留学生に茶道や華道、その他の日本文化のデモンストレーションをしてくださる方

電話またはFAXまたはメールでご連絡いただくと助かります。

電話：03-5607-4100

FAX：03-5607-4102

E-mail:tij@tij.ne.jp